

## 曲目解説

### R.ロジャース／真島俊夫：マイ・フェイヴァリット・シングス

トルヴェールのコンサートでは、よくご挨拶代わりとして演奏されるナンバー。不朽の名作ミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』の1曲で、マリアが雷をこわがる子どもたちに、「悲しい気持ちになったときには、お気に入りのものをたくさん思い浮かべるといいのよ」と伝えるシーンで歌われます。某CMで必ず流れるので、このメロディーに京都や新幹線のイメージが重なるのは一般の人として、トルヴェール・ファンならば、メロディーとメンバーの顔が重なる……のではないのでしょうか。

### J.S.バッハ：G線上のアリア

バロック時代の巨匠、「音楽の父」と呼ばれるヨハン・ゼバスティアン・バッハの作品の中でも、特に有名な1曲。傑出したメロディーが今なお世界中で愛されています。もともとは「管弦楽組曲第3番ニ長調 BWV1068」の第2曲「アリア」。メロディーを奏でるヴァイオリンが一番低弦のG線のみで奏でる曲であることから、「G線上のアリア」という通称名で呼ばれていることはご存じの通りです。

### J.リュエフ：サクソフォン四重奏のためのコンセール

パリの女流作曲家ジャニーヌ・リュエフ（1922-1999）は、マルセル・ミュールやダニエル・デファイエなどの著名なサクソフォン奏者たちと親交があり、数々のサクソフォンのための作品を残しました。その代表的な存在が、1955年に作曲された「サクソフォン四重奏のためのコンセール」です。リュエフの代表曲というだけにとどまらず、サクソフォン四重奏のための重要なレパートリーとして広く知られます。高い音楽性を持つこの作品は、また、難曲としても知られます。全6楽章から構成されており、各楽章が色合いの異なるカラーを持ちます。最終楽章には、これまでの楽章のテーマが組み込まれています。

### G.ホルスト／長生淳：「トルヴェールの《惑星》」より“木星”

ホルストの組曲《惑星》を、現代日本を代表する気鋭で、トルヴェールQのための作品も多くてがけている作曲家・長生淳が、2003年に編曲した作品です。トルヴェールQのために編曲され、その際、冥王星、彗星、地球が新作として新たに加えられました。

本日演奏する「木星」は、愉楽の神「ジュピター」です。

### J.S.バッハ：ガヴォット

バッハ作曲の無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第 3 番の中の作品です。本日はそれをソプラノ・サクソによってお楽しみください。ガヴォットは、フランスのフォークダンスに由来する古典舞曲のことです。

### デスモンド：Take Five

ポール・デスモンド（1924-1977）はアメリカで活躍したジャズ・サクソ奏者であり作曲家です。曲名の通り、珍しく 5 分の 4 拍子で書かれています。

### バーンスタイン：「ウェストサイド・ストーリー」より “マリア”

この有名なミュージカル、ウエスト・サイド物語が初演されたのは 1957 年。シェイクスピアの戯曲「ロミオとジュリエット」に着想し、当時のニューヨークの社会的背景を織り込みつつ、ポーランド系アメリカ人とプエルトリコ系アメリカ人の少年非行グループの抗争と若い男女の恋と死を描いた作品となっています。

### モンティ：チャルダッシュ

クラシック界で大人気曲であり、コンサートのアンコールで一番演奏される回数が多いのでは、と目されている曲です。もともと「酒場風」というハンガリー語に由来した、ハンガリー音楽のジャンルと言われており、19 世紀にヨーロッパ中で大流行しました。モンティのこの作品は、もともとマンドリンのために書かれています。現在、様々な楽器で演奏されている超有名曲となっています。

### 石川亮太：ナポリ！ナポリ！ナポリ！

石川亮太は、吹奏楽作品を多く手掛ける若手作曲家の中でも傑出した存在です。学生時代には吹奏楽部でサクソを担当していたといいます。この曲は、そんな石川にトルヴェール Q が委嘱して生まれた、石川とトルヴェールならではの愉快的な作品です。「フニクリ・フニクラ」「オー・ソレ・ミオ」「帰れソレントへ」「サンタ・ルチア」といったイタリアの有名メロディと、トルヴェールのパフォーマンスならではの笑い要素が盛りだくさんに詰め込まれた、ファンタジー溢れるメドレーの逸品といえるでしょう。